

エントリーNo 7

Q1.学習会のコンセプトについて記入してください。

- 学習会名称 (全国青年教職員学習交流集会「TANE!in 山梨」)
- 主催者 (全日本教職員組合) ※企画・運営 (全教青年部「TANE!」実行委員会)
- 対象者 (青年教職員および学生等)
- 開催日 (2014年2月1日(土) 12時～2月2日(日) 12時)
- 開催場所 (山梨県石和温泉)
- なぜその学習会を企画したか

(1) 全国規模の青年集会は2001年からスタート

全教青年部では、全国規模の青年教職員学習交流集会を2001年から行ってきました。01年からは「パワーアップ合宿」として組合運動を中心に、05年からは「センセのがっこ。」として教育実践の色を加えての内容にリニューアル。当初は、まだ新規採用が少なかったことで、青年部の活動も今以上に(地域によりますが)困難だった時期です。

各地に点在する青年が集まって、交流し、学ぶことで青年教職員を励まそう!とはじまった集会でした。

(2) 団塊世代の退職…青年が「お客さま」から「担い手」へ

ベテラン世代が大量退職期を迎え、都市部を中心に採用増となり、次第に若手の教員が増えてきました。教育実践でも、組合の運動でも、世代交代にさしかかっている訳です。ざっくり言えば、若手が「お客さま」から「担い手」になることが求められているということです。「学習会に誘われる立場」から「企画する側」へ。職場でも頼りになるベテラン先生が次々に退職。いま、私たちの世代は、次世代の民主教育と教職員組合運動の担い手として、自らが成長することを求められています。自分たちが「子どもを真ん中にした教育」や「よりよい教育条件・労働条件を実現する運動」をすすめていく番に…。

(3) そして集会コンセプトの転換へ

2009年から、全教青年部はこの集会のあり方を再度見直し、あらたなスタイルでの実施にふみきました。何が変わったのかというと、その企画・運営すべてを「青年の手」で行うという点です。全国から実行委員を募り、青年自信の思いで、青年自身がつくる形にしたのです。

全国集会を自分たちの手でつくる経験から、多くを学び、同世代のつながりを深めていくこと。実行委員会メンバー一人ひとりが「学び」「つながる」ことを大切に成長していくこと。もうちょっと言えば、その経験や学んだチカラをそれぞれの学校・地域で発揮していくこと…そんなことを目標にしました。規模を追求するよりは、「充実した学び」「参加者同士のつながり」を得られるような「適正規模」で、参加対象も、「各地の組合でがんばっている青年」を基本にしています(もちろん未組を誘ってきてもらってもOKです)。内容も「青年組合員が、組合の大切さや、子どもを真ん中にした民主的な教育実践を学び、全国の仲間とつながり、TANE!で学んだことを生かして各地の青年運動をどう元気にしていくか」を目的にしました。

～TANE!実行委員会第1回実行委員会資料より～

○企画するにあたって、運営で工夫した点は？

「元気になる」「悩みを共感し分かち合う」「いま自分たちに必要なことを学び、ともに成長する」「聞くだけでなく語り合う」をコンセプトに、全国から集まった実行委員がアイデアを出し合い、議論を重ね、「TANE!」の準備と運営を行ってきました。実行委員会は全部で5回開かれ、毎回の実行委員会では、実行委員の学校の様子や実践交流も行うなど、有意義な時間となりました。

今回の「TANE!」には、保育の実施により参加者の拡大があったり、教組共闘組織からの参加や新たに実行委員を希望したりする仲間も現れ、文字通り“種”から“つながりの芽”がでてきています。一昨年度、2世代目の実行委員が卒業し、昨年度は新たな実行委員で「TANE!」をつくり上げてきました。今年度はほとんどの実行委員が任期の2年目を迎えます。“つながりの芽”を枯らすことなく、希望の花が咲くように大切に育んでいくことが重要です。

～2014年度青年部第30回定期総会議案より～

○苦労した点は？

義務制組織と高校組織、特別支援学校等、青年教職員の置かれている状況や課題等が違う中で、TANE!実行委員会でどのようなことにとりくんでいきたいのか、意志統一するのに時間を要した。しかし、その分じっくり話し合うこともできた。

Q2.参加者ついて記入してください。

○参加人数 目標（200）人 実際に参加した人数（172）人

○参加者からの感想は？

1日目は全体会と8つの分科会が行われました。全体会は朝日新聞編集委員の氏岡真弓さんの講演「いま、先生は～過酷な、しかし人を惹きつけてやまない仕事」です。参加者からは「過酷なのは私たちだけではないが、しんどさを分かってくれる人がいるだけでまたがんばれる気がした」「教師という仕事の魅力も、しんどさも聞けて仕事の見え方が深まった」といった感想が、講演後の感想交流会で聞かれました。

分科会は、「いのちの教育」「不登校」のテーマ別分科会を設け、高校の分科会の1つを私学の青年がレポートするなど、新たなとりくみをしました。「自分の体・ところを知ること、相手を知ること、気持ちを思いやることから始めていけたらいい」（いのちの教育）、「その子に本当に必要なものは何か、自然体で向き合いゆっくり一緒に考えていくことが大切」（不登校分科会）、「担任を持つときに不安な要素の一つだった保護者との関係に対する不安が和らいだ」（高校分科会・保護者連携）といった感想が聞かれました。

2日目は、7つの講座で学びました。「少しずつ見えてくる組合の形に、良さがわかり加入したことを喜びに思えるようになった」「働く人の権利を学ぶことが重要」「自分たちの働き方について考えたい」「ともにたたかう仲間をつくりたい」など、組合とは何かを知る機会となりました。
～新聞全教より～

○どんな総括をしましたか？

【全体会】

・講師は良かった。全員が聞きやすい話だった。

【分科会】

・共感的意見が多かった。失敗した経験を多く語ることで周りの人に共感が生まれた。ほっとして話せる場がTANE!だった。初任者の人がいたが、初任の人もグループで話せたのが良かった。
・性教育に関してニーズはあるけど、学ぶ場所がないのでは。内容としては、人格の発達としての性という共通の理解ができた。高校の先生の参加が多く、目の前で困っているという人が多かったのが現状。

【講座】

・その時の時事ネタに青年は興味がある。来年は臨教の話や、原発の話なども入れてはどうか。

【その他】

・集会の始めと終わりに流したビデオが良かった。

○総括を踏まえて、次に活かそうと思う点など

※上記参照

○その他、学習会を行って気づいたこと

今年度のTANE!は静岡県の伊東で1月31日～2月1日に行われることが決定している。静岡の青年部とどのように連携を取り、青年部活動を活性化していくのか、青年の要求に応えた学びとは何かを追求していきたい。

TANE!の広がりとしては埼玉高で行われているSAITANE!などが挙げられる。各組織で、TANE!がどのように各組織の青年部活動にとりいれられているのかも知る必要がある。